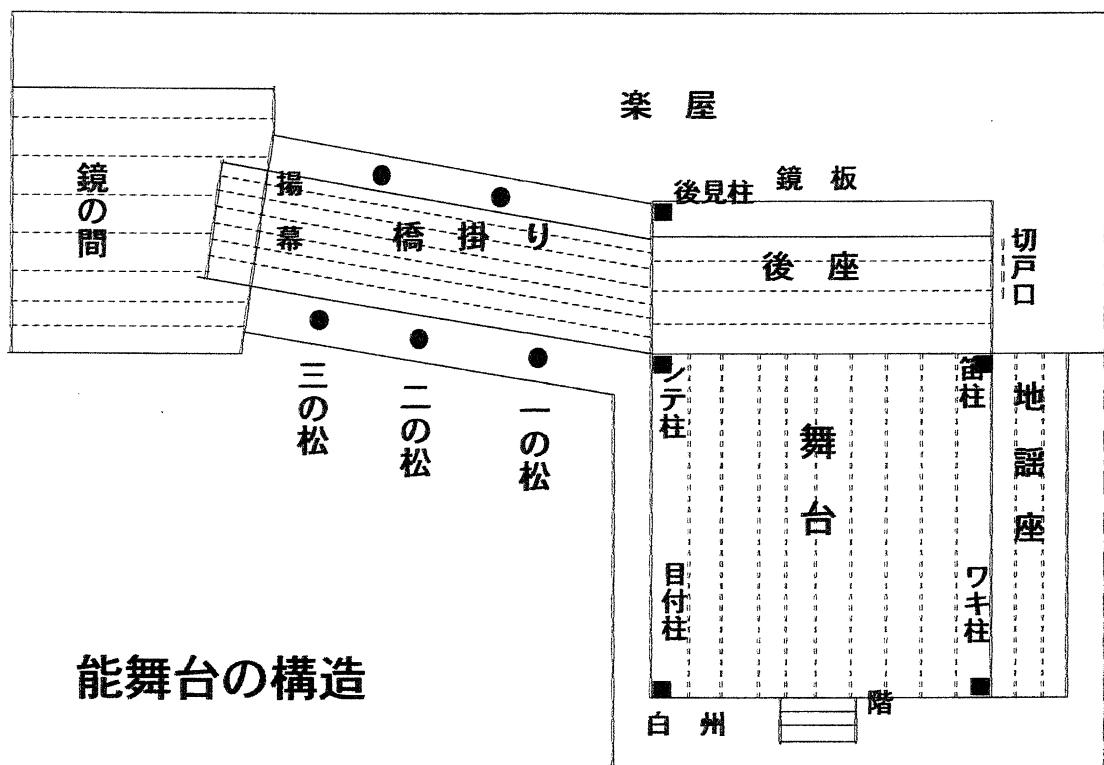




能舞台の構造

(番組構成と曲の種類)

1. 一番目物：脳能物：神物

一日の番組の最初に演ぜられる前シテが神の化身の老翁、後シテが神体といった神能が多い。この曲の主眼は祝言性におかれ、天下泰平、国土安全が寿がれる。

「翁」「高砂」「老松」など

2. 二番目物：修羅物：男物

生前の戦の罪によって、死後、修羅道に堕ちた武人の苦患を描いたり、生前を回想するもので、ほとんどが源平合戦の戦物語が主眼となっている。

「敦盛」「実盛」「巴」など

3. 三番目物：鬘物：女物

歌舞中心の優美な場面を展開する。幽玄の情緒がもっとも濃いもので、王朝物語の主人公や草木の精などの美女が中心になるものが多い。

「半部」「羽衣」「熊野」「大原御幸」「千手」など

4. 四番目物：雑能：狂い物

別離した愛人や我が子を求めてさまよう狂乱物や、現世への絶ちがたい妄執を現す執心ものなど、文学的主題の濃厚なものが多い。

「三井寺」「藤戸」「葵上」「鉢木」「弱法師」など

5. 五番目物：切り能物：鬼物

一日の最後に上演される。山奥、水中、月世界など、異界からの来訪者を主として扱い、にぎやかで豪快、あるいは爽快な曲が多い。

「殺生石」「船弁慶」「羅生門」「鞍馬天狗」「鵜飼」「紅葉狩」など